

平戸

令和8年5月29日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
TEL 045-821-2329
FAX 045-826-2005



学校HP・「校長室だより」が
更新されています。ぜひご覧ください。
(閲覧数5/28 現 118787人)



生成AIで描いた我が家の犬です。
※【Copilot】で作成。

学びの環境づくり

副校長 島原 祥徳

近年「生成AI」という言葉を耳にする機会が急速に増えてまいりました。文章や画像、音楽などを人の指示に応じて生み出すこの技術は、社会のさまざまな場面で活用され始めており、教育の在り方にも少なからぬ影響を与えています。先日、横浜市教育委員会事務局からも「生成AIの利活用に関するガイドライン」が示されました。そして、今年度から横浜で導入しているAIドリル「Monoxer」も、AIが個人の学習状況や進度に応じてヒントや問題を作成します。本校においても導入に向けて準備を進めています。

生成AIは、学びを支える新たな道具として大きな可能性をもっています。例えば、学習内容の理解を助けたり、自分の考えをまとめる手がかりとなったりするなど、子どもたち一人ひとりの学びに寄り添う活用も期待されます。一方で、示された情報が必ずしも正しいとは限らないことや、自ら考える力が弱まるのではないかと懸念もあります。

このような時代において大切なのは、「便利に使う」ことにとどまらず、「賢く使う」力を育てることではないでしょうか。情報を受け取る際に、それが信頼できるものかを見極める力、そして何よりも自分自身で考え、判断し、表現しようとする姿勢を育てていくことが、これまで以上に求められてきます。

本校では、子どもたちが「つながり合いながら」主体的に学びに向き合う姿勢を育てることを大切にしています。その上で、時代の変化に応じ、ICT機器や新しい技術を適切に取り入れながら、よりよい学びの環境づくりに努めてまいります。

いかに技術が進歩しても、学びの中心にいるのは子どもたち自身です。友達と考えを伝え合い、時に悩みながら理解を深めていく経験は、何ものにも代えがたいものです。生成AIはその過程を支える一つの手段であり、子どもたちの成長そのものにとって代わるものではありません。先日行われた学校運営協議会においても、委員の皆さまから「この時代ICT器機は取り入れていくことにはなるが、人と人とのコミュニケーションの大切さを忘れてはいけない」「昔から大切にしている【話の聞き方・相手に伝わるような話し方】は継続して指導してほしい」とのご指摘をいただきました。

これからの社会を担う子どもたちが、新しい技術と適切に関わりながら、自らの力で未来を切り拓いていけるよう、教職員一同、日々の教育活動に丁寧に取り組んでまいります。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。